



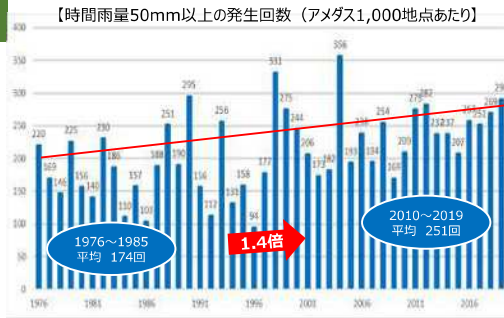
田んぼダムを推進します！

岐阜県農政部農地整備課

1 「田んぼダム」が必要なわけ

■大雨による水害が増加しています

- 近年の気候変動により更なる水害の激甚化・頻発化が懸念。(1時間50mm以上の降雨が1.4倍に増加)
- 河川改修などこれまでの治水対策だけでは近年の激しさを増す水害には対応しきれないケースが出てきました。



■流域治水の取組が始まりました

- 気候変動による降雨量の増加に対応するため、**流域のあらゆる関係者が協力して被害を最小限におさえるための「流域治水」の取組**が始まりました。
- 「流域治水」の取組の一つとして田んぼの雨水貯留機能を活用した**「田んぼダム」の取組**が全国的に広がっています。

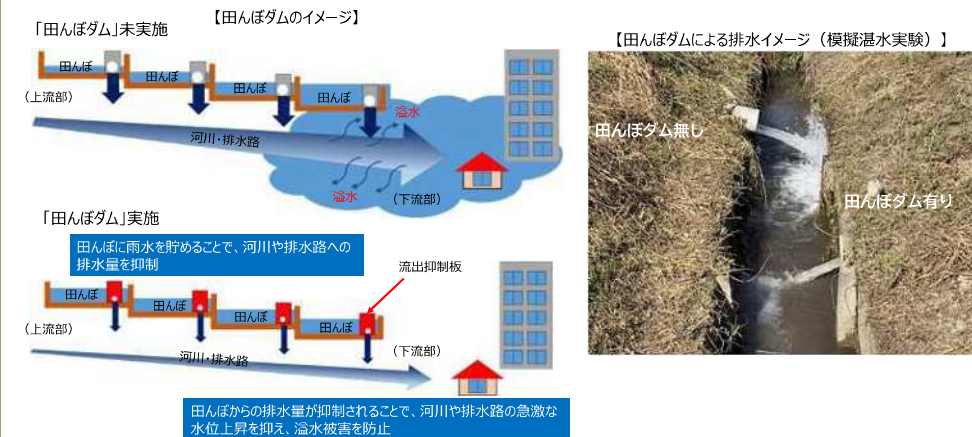


	水田面積	田んぼダム取組面積	取組率
全国	2,352,000ha	56,000ha	2.4%
岐阜県	42,000ha	20.1ha	0.0%
北海道	221,600ha	28,000ha	12.6%

NO.1 【「田んぼダム」の取組状況 R5.1】

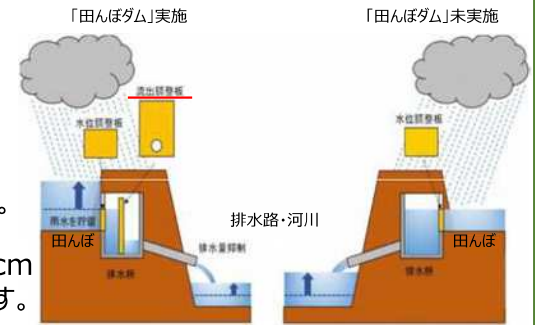
2 「田んぼダム」とは

■雨水を一時的に田んぼに貯められるようにして、ゆっくりと排水することで下流の排水路や河川の水位上昇を抑制する取組です



3 「田んぼダム」にするには

- 田んぼの排水口に、排水管よりも小さな穴の開いた流出調整板などを取り付けることで、大雨時に排水される水の量を少なくします。
- 一時的に田んぼに貯められた水は、少しずつ排水路や河川に排水されます。
- 通常よりも水位が高くなるため、約30cm程度の丈夫なあぜを作る必要があります。



【「田んぼダム」のイメージ図】

■調整板のタイプは様々あります

スリットタイプ

堰板に切り欠きがある調整板で排水量を抑制します



柵タイプ

田んぼダム用に開発された排水柵で排水量を抑制します (柵の交換が必要です)



4 「田んぼダム」しても大丈夫？

- Q. お米の品質や収量に影響があるのでは？
A. 貯水については一時的なものであり、国が行った実証では、品質や収量に明らかな影響は確認されませんでした。
- Q. 水を貯め続けるとあぜからあふれるのでは？
A. 余水吐機能があるため、調整板の設置やあぜの築立を正しく行えば、あぜから水があふれることはありません。
- Q. これまでよりも手間がかかるのでは？
A. 流出調整板にゴミが詰まりやすくなったり、貯水のためのあぜの管理が必要となる場合があります。

■「田んぼダム」はあくまでも営農優先の取組です

■皆さんの不安や疑問を少しでも解消するため、県において実証を行っています

